

## 世界へ羽ばたけ！ 女性研究者プログラム

(実施期間：平成19～21年度)

実施機関：九州大学（代表者：有川 節夫）

### 課題の概要

男女共同参画推進室と連携して、「女性研究者支援室」を設置する。ここでは学内の女性研究者ネットワークを構築し、部局等において孤立する可能性のある女性研究者に研究支援のためのきめ細かい情報収集、発信を行うほか、インフラ整備のための調査、ネットワークを利用した各種相談の橋渡し、女性研究者セミナー・交流会等の企画・立案等を行う。またこのセミナー等を利用し優秀な大学院生、ポスドク、助教層の中から優秀な研究者を発掘し、教授、准教授層が研究面その他の助言を行うほか、国際学会参加や国際学術誌への論文投稿への経費面での支援等、研究業績を積み上げるための支援策を講じ、育成する。更に政府機関等が設置する委員会の委員を複数務める女性研究者に対し研究補助者を措置することで、社会貢献と同時に、自身の研究及び後に続く研究者の育成にも力を注げる環境作りを支援する。なお女性研究者増に向けて、女性教員の採用・昇任に当たってはスタートアップ経費を支援する。

以上のように優秀な女性研究者の発掘、育成及び研究環境整備を行い、九大を拠点に活躍の場を世界に広げて羽ばたくことを可能とする支援策を実施する。

#### (1) 総合評価（所期の計画を超えた取組が行われている）

女性研究者の支援策として、“Hand in Hand”プロジェクトによる多様なニーズに対応した研究補助者措置制度、学内助成制度における女性枠の設置、国際学会派遣、学内保育施設の新設等を積極的に実施し、さらに、これら取組の改善、他機関への波及に努めることにより、所期の計画を超えた取組を行っている。特に幹部職員の意識改革に積極的に取り組み、総長の主導による女性教員採用に向けたシステム改革が実施され、全学的な取組へと発展し、所期の計画を越えて上位職階（教授、准教授）の女性教員の採用が大きく推進されたことは高く評価できる。今後も全体の意識改革、女性教員数増加に向けた努力の継続を期待する。

<総合評価：S>

#### (2) 個別評価

##### ①目標達成度

女性研究者支援室の設置、研究助成制度における女性枠の設定、女性若手育成のための国際学会派遣制度等の実施については、所期の目標を達成していると評価できる。女性教員数を実施期間中に1.5倍（約300名）に増やす目標については、現時点では達成不十分であるものの、目標達成に向けて実質的な取組の改善が行われていることは評価できる。今後、女性教員の更なる採用が推進されることを期待する。

##### ②システム改革の成果

女性教員在籍率、増加率を指標とした部局への大学改革推進経費の傾斜配分、部局人件費管理へのポイント制の導入等様々なシステム改革を通じて取組を進めると同時に、女性枠での採用を実施することにより、特に上位職階での積極的採用が行われていることは高く評価できる。また、大学執行部への女性教員の参画、学術研究員まで対象を拡げた裁量労働制の導入、自己資金によ

る保育施設の新設等、意識改革を含めた女性研究者を取り巻く環境の整備を積極的に推進してきたことも高く評価できる。

### ③取組の妥当性・効率性

女性研究者支援室、ウェブサイトやメーリングリストを介して女性研究者のニーズを把握し、補助員制度の導入等、若手女性研究者に必要とされる支援を自主経費による取組を含めて実施しており、女性研究者の能力発揮のための充実した支援内容は評価できる。また、自己評価や学内からの要望に応じて取組内容を随時改善してきたことも評価できる。

### ④波及効果

九州・沖縄地区国立大学との連携による女性研究者支援ネットワークの構築、シンポジウムの開催、ウェブサイトによる情報発信等、外部に向けた積極的な働きかけは評価できる。「女性枠」の設定、意識改革の取組等の取組は、他の大学・研究機関のモデルとなっており、今後の波及効果が期待できる。

### ⑤実施体制の妥当性

総長を委員長とする男女共同参画推進委員会を設置し、総長のリーダーシップの下に全学的な体制で本事業を実施した点は高く評価できる。特に、実務組織として女性研究者支援室（現女性研究者キャリア開発センター）を新設し、既存の全学組織である男女共同参画推進室との連携を図り、環境整備、意識改革に加え、事務局機構各部課との協力など緊密な事業推進体制を構築したことは高く評価できる。

### ⑥実施期間終了後における取組の継続性・発展性

実施期間終了後の取組課題、資金計画、女性研究者比率の増加目標が明示されており、高いレベルでの継続性・発展性が期待できる。また、「女性研究者支援室」を改組した「女性研究者キャリア開発センター」を、プロジェクト対応センターから正規の専任教員2名を配置する恒常的なセンターに改組し、継続的に取組を行う体制を整えている。今後、女性研究者の育成に積極的な大規模総合大学として、より一層取組を発展させることを期待する。

## (3) 評価結果

総合評価	目標達成度	システム改革の成果	取組の妥当性・効率性	波及効果	実施体制の妥当性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
S	a	s	a	a	s	a